

建艦翼賛運動

第一期展望と

第二期展開について

建艦翼賛本部

御機威の下赫々たる武勳は中外を震撼せしめたが、時局は漸く重大なるとする時、昨年十一月二十六日各教宗派管長統理者は宮中に召されて、特に優渥なる勅語を賜はつたのであります。この光榮に浴せられた吾が法主台下に於かれては、直ちに宗務役職員全國報國團、推進隊代表者を召集せられ宗門の戰爭完遂に對處する烈々たる陣頭指揮の御教諭を授けられと共に御手元よりは建艦献金に金壹封を献納されたのであります。

茲に大谷報國團總監殿は報國運動として五大方針を指示され、その中に建艦翼賛運動を提唱せらるるや立所に宗務役職員の献金あり、參會の各報國團長、武田、金村、丸山、粟津各氏並に谷山、林山、増田氏等は、直ちに金壹百圓を總監殿の元に献金されることとなり、御裏方を始め各御連枝方よりも多額の献金をされることとなり忽ちに金參萬圓を突破致しました。

然して各教區ともに組長會を召集し、或は組内打合會を開催する等、住職主管者の奮起は要望せられ、運動は全國に展開せられたのであります。

法主台下には聖旨奉戴門末御教導の爲全國

行脚の途につかせられるや、此の壯舉を風聞せる僧俗悉く感激し、御視聞の當日に献金を出るもの少なからず各教區とも熾烈なる第一期献金運動展開となつたのであります。

たま／＼前門跡御遷化の悲報に一山は哀愁の雲に包まれたと雖も、刻下の重大性に鑑み此の運動は中絶することなく諒闇も明くる春四月勤皇の宗主殿如上人御法要を迎ふるや活然として運動展開は熾烈の度を増し、從來の例を破つて住職寺族の率先垂範の實は目ざましく五月二十七日の決戦下に迎ふる海軍記念日を前にして、鹿兒島久留米教區を筆頭に各教區とも響を並べて最後の決勝點に到達することとなり豫定の如く金壹百萬圓は住職主管者坊守等を以て献納致されることとなつたのであります。これ實に未曾有の快事と言ふべきで、各教務所長以下の御努力、各住職寺族の自覺の結果に依るものと深く敬意を表せざるをえないのであります。

茲に於て五月三十一日大谷總監殿により海軍省（海軍大臣所用ありたる爲次官受託す）に献納せられました。當局はいたく此の宗門人の陣頭指揮の精神と時局の認識の深きを喜ばれ一層の盡力を乞ふ旨激勵せられる處が

あつたのであります。

此の間山本元帥の壯烈なる戦死の報、續いてアツツ島に於ける山崎部隊長以下二千數百名の玉碎悲壯なる奮戦死闘次々に報道せられるに及び、刻下の苦烈深刻なる時局の現段階を國民等しく認識するに到り、敵米英艦隊のおもひも深く、切齒扼腕せざるはない状態で彌々第二次運動展開の速急を要する時、御裏方には故山本元帥國葬日に當り感激と激動の思召より第二次献金を寄せられたのであります。

第一期運動の終了に際し住職寺族の驟起と各教務所長其他の御盡力を深謝すると共に深刻なる現段階に對處して一刻も早く第二次運動を展開、所期の目的完遂の爲に今一層の御努力をお願する次第であります。

第二期運動展開に就て

法主台下の深甚なる聖旨奉戴の御教諭の思召によりまして時局の重大性を認識し、此の時局認識の浸透と之に對處する國民生活の奉公態制即ち日常生活の決戦化を希望し、刻々變轉する國際情勢を乗り切る爲に、大東亞新建設の指導者日本帝國臣民の光榮をよく擔ふべく當派僧侶、檀信徒の驟起を要する從來の目的とその目的は變らないのであります。

無敵皇軍必勝の體制には少しのゆるぎもありませんが、延々たる戦線は何處も常に死闘が繰り返へされてゐまして、必ずしも樂觀を許さざる敵國状態にあり、敵國の敵愾心の増大と優越感の振起による國內状態は日増に強化され豊富なる資源と労働力科學力の優越

は稍々もすれば吾國の精神的運綫を好機にむしばまんとする現状にあります。屍を異邦に晒し、骨を凍土に埋められたる護國の英靈に應へ、かしこくも尊意を安んずる爲には、敎家の身たる者の奮起此の時にあらずんば何時の時にか驟起せんやの念深きものあり、彌々一層の御努力を願はずにゐられないのであります。

第一期は既に壹百萬圓といふ多額を住職主管者を中心として献納された快事は實に前古未曾有の敎家陣頭指揮の現れと申すべく、全體より見る時百萬圓位の額は一個人實業家などより献金された例は少くなく、一體の大砲にも充たざる金額でありませうけれども、自發的になされた尊い献金である所に此の住職寺族等の舊觀を脱した献金に想ひを到す時、非常に貴重な献金でありまして當局の感激して受託せられたるも宜なることであります。かるが故に幾百萬圓信徒の献金を慫慂勧誘する第二期運動期限は一先づ八月末日以て終了致させることと致しましたものの幾百萬圓の献金は必然に集めえらるることと思ひます。此の點なんと言つても寺族住職の布教傳導による効果によらずば成らずと申すべく、本部としても總力を結集してあらゆる機會を利用し活用して以て是が運動に邁進致してゐる次第であります。

納金法について、献金は早速に納金され敎區を通じ一日も早く本部に納まり一刻も早く本省提出の出来るやう、献金芳名帳に普帳と同時に納金送金を督勵下さいますやうに願ひ度い。

第一期に献金もれされた住職寺族各位は第